令和　　4　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3570201172		
法人名	医療法人　博愛会		
事業所名	グループホーム　らくや		
所在地	山口県宇部市浜町二丁目1番3号		
自己評価作成日	令和4年5月28日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号　山口県総合保健会館内
調査実施日	令和4年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ感染防止の為、度重なる面会の中止、制限等のご協力を頂きながらの一年でした。職員も細心の注意を払いながら、出来るだけいつもの穏やかな時間づくりに拘り、行事等の楽しみは維持するように努めて参りました。お蔭さまで今日も、らくやにはワイワイガヤガヤ賑やかな時間が流れています。ご家族さま、地域の皆さま、関係者の方々にご支援を頂きながら、“お互い助け合っていつも笑顔で楽しい我が家”を目標に、時には親子のように、時には兄弟、親族のようなお付き合いがホームの中で繰り広げられています。“その人毎のその人らしい気兼ねのない生活”を守る為、“自分だったら・・・、自分の大切な人だったら・・・”をケアの根底に置きお手伝いする事を大切にしています。複合施設の中のホームという利点を活かしながら、地域にもっと根付ける活動も取り組みたいと考えています。これからも、慣れ親しんだ場所で、“昔ながらの大家族”のように補い合い、助け合い、思いやりながら、笑顔の絶えない楽しい我が家を目指していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者と職員は、事業所の理念と「当たり前三原則」を毎日唱和され、言葉づかいや接遇などを確認されて、理念に添ったケアを提供するるよう取り組まれています。職員は利用者一人ひとりに寄り添われ、表情や言動、反応などを観察する力を培って、その思いの把握に努めておられ、自分や自分の家族が受けたいと思えるようなケアの提供に取り組んでおられます。月1回の拠点内研修や内部研修、更には外部研修への受講を通して、資質の向上に取り組まれています。職員はそれぞれが、事業所独自の評価シートを活用されて、項目に基づく実践内容や目標などを掲げられ、意識的に支援に取り組まれており、年度末の自己採点や、管理者との個人面談を通して、日々のケアやサービス内容を見直され、「やる気」を起こすきっかけとして、前向きに取り組んでおられます。主治医と話し合って、利用者の生活の質の向上を図っておられます。職員自身も健康管理に気を配り、明るく、元気な挨拶を交わしながら、利用者や家族の信頼を得られて、安心して落ち着いた生活が送れるように、支援しておられます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：24. 25. 26）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：19. 39）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38. 39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：31. 32）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：29）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：10. 11. 20）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2. 21）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：5）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている（参考項目：12. 13）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、運営方針、ホームの理念、当たり前3原則の唱和を継続しています。新人教育をはじめ、昨年は複合施設全体で理念の重要性、それに基づくケアについて研修を行い意識強化が図れました。常に支援者としての自覚を養い、ご利用者個々へのケアが、理念、方針に基づいた提供になるように努めています	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念と基本方針を基に事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は毎日、昼礼時に、理念と「当たり前三原則」を唱和すると共に接遇トレーニング（言葉づかい）を行い、理念を共有している。医療機関や訪問看護師らの協力を得て、自分や自分の家族が受けたいと思えるようなケアの提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	複合施設の為、地域の自治会の一つの自治区となっています。コロナ感染防止の視点から交流の頻度は減っています。地域の行事への参加も行いませんでしたが、音信は継続しており、お付き合いが絶えないように努めています。元利用者ご家族による玄関花のボランティア、お客さまを紹介頂く等お付き合いは続いています。日常的な関りを安全に再開できる状況が早く訪れるよう願っています	拠点内施設（介護老人保健施設、生活支援ハウス、ケアハウス、グループホーム）が一つの自治会となっている。自治会主催の行事(どんど焼き、文化祭、夏祭り、クリスマス会等）やラン伴マラソン、ボランティアの来訪は中止となり、地域の人との交流はできていない。元利用者の家族が定期的に玄関に季節の生花を生けに来訪している。散歩時には地域の人と挨拶を交わしている。大学や専門学校の実習生（看護、介護福祉、リハビリ、作業療法士）を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習希望は、感染対策の為、安全性の確保を優先し、流行状況により、その都度検討させて頂いています。見学希望に関しては屋外から見て頂く等できる限り対応するよう心がけました。施設外での活動は思うように行えず、認知症理解への啓発活動に繋がっていませんが、現状の中での貢献方法を模索したいと思います		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員個々の自己シートからホームの自己評価を作成しています。自己評価シートから課題抽出、検討等、活用も定着してきており、評価が自身の振り返り、気づきとなり目標を意識して取り組む事が職員一人一人の資質の向上に繋がっていると実感しています。外部評価も受審回数を重ねるたびに助言、励ましを下さり、よき応援者と実感しています	ユニットリーダーが、ユニット会議の中で評価の意義を説明して、事業所独自の評価シートを配布している。職員は一人ひとりがケアを振り返り、項目に基づく実践内容の反省や気づき、改善点、目標を記録して自己評価を行い、各ユニット毎に検討したものを、管理者がまとめている。職員は、自己評価を通して日々のケアやサービス内容を見直し、新たな課題を見つけている。管理者は職員と面談を行い、評価が「やる気」を起こすきっかけとなるように、取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年も感染予防の観点から、会場開催は見合わせました。書面によりご利用者、職員の現況、リスク、身体拘束廃止と感染症防止の取り組み、行事を含めた事項等を報告しご助言を頂けるようお願いを致しました。委員の方々との関係を保ち次年度へ繋ぎたいと考えます	会議は年6回、書面で開催している。利用者と職員の状況、行事報告、委員会（リスクマネージメント、感染対策、身体拘束廃止）活動、、事故、ヒヤリハット報告、家族アンケート結果等を報告している。より広く意見を求めるため、書類送付時にアンケート様式の返信書式を同封するなどの工夫をしている。メンバーからは、新型コロナ感染対策関連の質問を得ている。身体拘束廃止委員会の報告など事業所の取り組みが、学生への刺激となっており、学生指導に活用したいとの意見を得ている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課とは運営推進会議への参加協力、事故発生時の報告、事業所の運営上や入居対応の相談への助言、指導を頂いております。ちょっとした事項でも相談しやすい関係が保たれていると感じています	市担当者には運営推進会議の議事報告をし、実地指導時や電話などで申請内容の手続き、運営上の疑義、事例等の相談をして助言を得ている他、感染症予防の指導を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換を行い連携を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開居後、身体拘束の事例は発生していません。“当たり前3原則”の遂行、教育委員会、又、ホーム内研修の開催、身体拘束委員会活動を継続し“ご利用者の今いる世界での発言や思いを否定しない”知識を深め言動に留意をしています。玄関施錠も拘束と捉え、不適切ケアで更に高まるリスクを理解し取り組んでいます。ケアの見直しや家族の協力も視野に、これからも拘束のない環境を維持したいと考えます	職員は、毎日の昼礼で「当たり前3原則」を唱和し、身体拘束廃止マニュアルを基にした拠点内研修や内部研修や、法人の身体拘束廃止委員会（月１回）に職員が参加し、事例検討や取り組みの報告等を通して、身体拘束や虐待の内容や弊害について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所の年間目標にスピーチロックをなくす取り組みを掲げ、スピーチロックのないケアに取り組んでいる。気になるところがあれば、職員同士で注意しあっている。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば職員が一緒に出かけたり、気分転換を図るなどの工夫をしている。離設時の対応について細かく決めて、利用者一人ひとりのケアプランに活かすとともに、拠点職員の協力を得て見守りしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会、年間2回以上の研修、“当たり前3原則”実践を続けています。全職員、利用者の表情や態度から気持ちを読み取る力を養っています。職員の適正、就業環境にも着目し、上手くいかない対応に対しては思いや悩みを共有し検討、実践する事で虐待に繋がらないよう取り組んでいます		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、お一人の方が制度を利用されています。利用者の様々なご事情、生活環境から制度の利用は高まると感じています。更に正しい知識を深め情報提供等を通し活用の推進に繋がればと考えます		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には、現入居者への配慮をしたうえで見学からお勧めし、ホームの雰囲気を感じて頂きながら情報提供、質疑応答を通し判断頂くように努めています。契約時の約款説明等は丁寧な説明に心がけ、必要に応じ、代理人以外の方へも説明を行う等、安心した契約、同意となるよう努めています		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂くことでホームが成長できると考え、ご意見箱の設置やホーム内相談担当者、第三者委員、外部相談機関の表示を重要事項や玄関に明示し、ご契約、面談時には口頭説明も含めてお願いしています。年に一回のご家族アンケートも配布先を増やし、気軽に多くのご意見を頂けるよう努めています。昨年は面会制限についてのご意見を頂きました	苦情相談の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示し、契約時に家族に説明をしている。面会時の面談や電話での近況報告時に意見や要望を聞いている。年1回家族アンケートを実施している。意見箱を設置している。管理者は3カ月に1度、家族宛に利用者の暮らしの状況を事業所便りで知らせている。面会時には管理者やユニットリーダーが利用者の日頃の様子を伝えて、家族が意見や要望が言いやすいように工夫をしている。家族からの意見は苦情受付簿に記録し、ケアに関する要望は生活日誌に記録して職員間で共有している。この1年は運営に反映させる意見は得ていないが、面会に関する質問には、法人としての対応などについて丁寧に説明している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティング、法人内小委員会活動、提案箱の設置、ユニットリーダー、副リーダーでの意見の取りまとめ、提案、検討でより良い生活づくりに取り組んでいます。新人職員が発言しやすい環境づくり等、更に検討できればと考えています	管理者は、2ヶ月に1回の全体ミーティングや2ヶ月に1回のユニットミーティング時、拠点内の委員会活動(リスクマネージメント、身体拘束廃止、感染対策)、小委員会活動(CS、教育、美化、広報、レク)の中で職員の意見や提案を聞いている他、日常の業務の中でいつでも気軽に意見を聞いている。入職後1か月間は新人職員から日誌で、感じたことや意見を聞いている。育休明け職員の就業時間について、他の職員の協力を得ながら調整するなど、職員の意見を運営に反映している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の就業時における身体、精神的な負担に対して理解しています。各職員の健康、家庭環境における就業時間の工夫等、職員間の協力を得て行っています。職員の補充も2名あり現在育成中です。就業環境が整えば更にケアも充実すると考えます		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、個人の適正を把握しながら、ご利用者との関係づくりに重点をおき、段階に応じ時間帯別業務を取得できるよう取り組んでいます。拠点施設で行う研修やホーム内研修は極力多く受講できるよう勤務調整を行っています。希望や段階に応じて外部研修も受講する機会も作っていますが、昨年はオンライン開催が主となりました。外部研修参加者は伝達研修を行い、共に知識向上に繋がるよう努めています	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度はオンライン講座を含め、県主催の新型コロナウィルス感染症に関する研修会や「家族の会」、GH協会主催の研修会や、認知症介護基礎研修などに参加している。受講後は復命書を提出し、ミーティングや内部研修の場で伝達講習を行い、資料を配布して職員全員が共有している。拠点内研修は、倫理・コンプライアンス、感染症対策～新型コロナ、認知症ケア、プライバシー保護・個人情報保護、救急救命、セルフケア、リスクマネジメント、身体拘束廃止・虐待防止、看取りケア、防災・災害について実施している。内部研修は毎月、ユニットミーティングの中で管理者と職員が講師となって、認知症ケア、防災害、身体拘束廃止・高齢者虐待防止、リスクマネジメント、倫理・コンプライアンス・個人情報保護・プライバシー保護、応急処置について実施している。新人研修は5日間の法人研修受講後、事業所内で日常業務の中で先輩職員の指導を通して介護の知識や技術を学べるように支援している。資格取得については休暇の便宜を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では小委員会、共同行事、研修での交流、全国・県GH協会、介護福祉士会、認知症ケア専門士会等での部会、研修会でさまざまなネットワークが構築できていると感じています。コロナ禍で直接会っての交流はありませんがオンライン等を通じた交流で意識を高めあいスキルアップは保たれていると思います		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から思いをしっかり傾聴し、情報は大切に全職員で共有しています。初めての見学から、話しやすい環境・雰囲気を作り、日常会話からの引き出しや、態度、表情からも想いを汲み取るよう努めています。情報から入居までの流れをその方毎検討する等、受け入れ体制を整え安心して打ち解けて下さるよう心がけています		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色々な想い、不安を抱えていたり、家族間の思いの相違等で関係性が危ぶまれたりと、様々な問題を抱えておられる事を全職員が理解し、話しやすい相手、環境をとなるべく努めています。面会を増やして頂いたり、適宜状況報告する等、少しでも不安を和らげて頂けるよう努めています		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、本人、家族の想い、希望内容を把握しそれに適したサービス提供を検討しています。入居までの待期期間も含め、必要に応じて他サービスへの情報提供や調整、他GHへの紹介を行い、早期に安心して頂く支援になるよう努めています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる力に応じ生活活動には参加頂くよう努めています。協力があった際は、感謝の気持ちを必ず言葉で伝え、次活動参加への意欲に繋がるよう心がけています。人生の先輩としての助言や励ましで職員の士気を高めて下さったりと、周囲への折り合いを調整をして下さったりと、支えられている場面の方が多いと感じています		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染防止対策上、制限もあった中ではありましたがご協力頂いていると感じています。面会が叶わない事が多く、近況をお伝えする頻度を増やし安心して頂けるよう心がけました。可能な限り“家族が望まれる介護”に努めています。職員だけでは阻止できない危険回避や食事のお手伝い、散歩支援等協力頂く場面は多いと感じています		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止対策上制限もあり、面会、外出による馴染みの方との交流は少なかったと思います。年末、面会制限解除時期が少しあり、直接の面会が叶い、お久しぶりの再開に胸が熱くなる場面もありました。電話、オンライン等の活用は続けています。直接繋がれなくても会話の話題に取り入れる等、関係の継続に繋がるような支援を心がけています	家族の面会や親戚の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。感染防止に配慮しながら、馴染みの神社や公園、自宅の近所のドライブしている。家族の協力を得て、法事への参加や墓参りをしている。家族から送られてきた写真や、孫が生けた生花を、居室に飾って、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係を保つ為に、疾患からくる不協和的発言や関係悪化の雰囲気に早期に気づき、対応し、折り合いをつけて頂くよう努めています。各々の個性を大切に、相性を見極め、共に暮らす者同士としてお付き合いして下さるよう努めています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に入院が利用終了の事由となっています。感染対策の観点から入院先での面会は叶わず、ご本人の様子を直接伺える機会はありませんでしたが、入院、転院時の立ち合いや介護添書による情報提供、再利用の為の居室保証制度、関係継続に努めています。利用終了後も家族の希望に応じ証明書等手続き協力、これまでの繋がりから関係を続けて下さる家族も多く、玄関の生け花、お客さまを紹介頂く等応援して下さっています		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、お一人毎のリズム、スタイルを保った支援を・・・と考えています。意思表示が困難な場合、表現しやすい方法の検討や、表情・態度から読み取る等、想いや意向の把握を心がけています。生活環境の変化に伴うダメージを理解し、混乱回避の為の協力を家族に頂きながら、その人毎の気兼ねのない生活づくりを目指しています	入居前には、自宅訪問や前入所施設からの情報を得て、環境状況や生活歴、本人や家族の希望、好きなこと、趣味等を収集して入居調査票に記録している。入居後はセンター方式のシートを活用してアセスメントをしている他、日々の関わりの中で利用者の傍に寄り添い、笑顔になった場面や不機嫌になったこと、嫌がったこと、好きな歌、見入っている写真等、表情や言葉、対応を記録して思いの把握に努めている。困難な場合は家族からの情報や、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、身近な方からの情報や、サービス利用や入院があった方は、関係機関との面談や書面による情報を頂き、入居調査票やアセスメントを作成、全職員が共有し把握したうえで、お一人毎の意向に沿った生活づくりに努めています		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を、健康管理・生活記録に記し、就業前には一読、口頭での申し送り等での把握に努めています。日毎、その時毎により変化する“できる力”を理解し、それに合わせた支援になるよう努めています。24時間シートの活用を行い、より簡潔に把握、共有できるよう取り組んでいます		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回アセスメントはセンター方式を使用し、居室担当が作成しており、それを基に本人や家族の意向、主治医・看護師等からの助言を含め作成しています。モニタリングは、ミーティング時の個別カンファ、チェックシート、記録等を基に行っていますが、24時間シート活用でのモニタリングも今後検討したいと考えています	隔月毎のユニットミーティング時に、利用者を担当している職員が中心となってケア内容を検討している。計画作成担当者はそのケア内容を基に、本人や家族の思いや意向、かかりつけ医、看護師等の意見を参考にして、介護計画を作成している。3ヶ月もしくは6か月毎にモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状況や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理・生活・受診記録があり個人毎のファイルを作成しています。些細な言動、対応等細かな記載が生活支援に重要であることを理解し、職員個々の記録力の向上と、そこから読み取り適切な支援に繋げる力の向上に努めています。家族記録については未作成に終わっているので、引き続き検討したいと思っています		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院との関わり、入退院時の送迎も含めた連携、医療連携での訪看、リハビリの為の通院や特指示を受けての訪看の医療処置等、できるだけニーズに沿える支援を心がけています。昨年、骨折事例が発生いたしましたが、病院、諸事業所の協力もあり手術も含め3週間での再入居が叶いました		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染防止対策から、受診以外、利用者が直接地域資源を活用する場面はありませんでしたが、消防、防火設備会社での防災設備等の定期的な点検でホーム内の安全を確保したり、食料品購入等に地域商店を活用させて頂いています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医、他科への受診支援を行っています。出来るだけ診療に関わることで主治医がホームの実情を把握した治療方針を検討下さったり、些細な事でも相談にのって下さったりと連携では深められていると感じています。本人の受診までの準備、安全な通院手段の検討を含め、安心して診療を受けて頂くよう心がけています。又、歯科、耳鼻科等、訪問診療で来て頂ける診療科もあり、利用される方も増えています	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。他科受診も併せて事業所で月に1回から2回受診支援をしている。必要に応じて家族が同伴して受診したり、主治医の訪問診療を受けている。歯科も必要に応じて受診支援をしている。結果は受診記録に記録して、職員間で共有し、家族には電話で報告している。訪問看護師が月2回来訪し、利用者の健康管理や医療ケアを行っている。休日、夜間、緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携での月2回の面談では小さな変化、気づきを相談、細やかな助言や指導を受けそれに沿った支援を継続しています。訪問後、看護から主治医に報告、相談して下さったり、指示によりホームでの処置を行ったりと、本人にとって“不安を取り除く医療ケアを・・・”と取り組まれています。昨年は退院に不安のある方の医療ケアを受けて頂き、体調回復に力を貸して下さいました		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した医療が受けられるよう、居室保証システム、入退院時の同行、情報提供、収集、カンファ参加等の支援は続けています。入院先にも地域連携のシステムが構築され調整・連携が図りやすくなりました。感染対策の為、面会が叶わない時期、電話でこまめに情報交換を行いました。関係性も深められていると感じます。入院しても早期に帰って来られるよう協力を頂きました		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時“重度化及び看取りに関する指針”にて説明、意向確認、同意を継続して行っていますが、一度の意向確認で終えず、その時毎の状況変化に合わせ本人、家族、主治医、看護と検討、再確認を行っています。本人、家族他医療従事者からの協力、連携を図りながら最良な生活を提供できるよう取り組んでいます	契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を家族に配布して説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は早い段階から家族や主治医、訪問看護師、職員等、関係者が話し合い、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ちょっとした事故がその後の生活に大きく影響を及ぼしてしまうことを理解し、事故防止への意識、危険性を予見し防止する力を更に養う努力をしています。事故防止活動、回避が難しい危険性に対する検討や、研修、マニュアルの遂行、ケアプランへ反映をしています。急変時の応援要請、応急処置、迅速かつ適切な対応が行えるよう訓練を行うと共に、必要時は市への報告も行っています	事例が生じた場合は、事故、ヒヤリハット報告書に発生状況や対応を記録し、対策についてはミーティング時に職員間で検討し、昼礼時に周知している。月1回の拠点内のリスクマネージメント委員会に報告して、一人ひとりの事故防止に努めている。業者の協力を得て、救急蘇生法とAEDの使用方法の訓練を実施している。事故防止マニュアルを基に、拠点内研修や内部研修で事故防止や応急手当、感染症防止等の研修を受講して、実践力を身に付けるように取り組んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているといえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関して常に危機意識をもって対処できるよう取り組んでいます。“火災は起こさない”為に自己点検表による環境整備・安全確認の継続、避難訓練、研修、マニュアルを通してイメージトレーニングにより迅速な対応を目指しています。風水害対策に対しても研修、マニュアルにて対処方法を確認し、事態の恐れがある時は職員配置等の事前検討、準備・避難の再確認を行う等、早めの備えに心がけています	夜間の火災を想定した拠点施設合同の訓練を1年1回、利用者も参加する事業所独自の訓練を年1回実施し、避難経路の確認や避難訓練、通報訓練を行っている。内部研修として防災についての研修を実施している。拠点内研修で「防災、災害について」を学んでいる。拠点施設全体での緊急連絡網や職員の協力体制がある。コロナ禍の影響で訓練への地域の人の参加は得られず、地域との協力体制の構築に対する取り組みはできていない。災害用の水の備蓄をしている。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昨年、契約書の内容も一新し、全職員に再確認を行いました。又、入職の際、守秘義務の重要性の指導をした上で誓約書を交わしています。定期的な研修・接遇訓練、“当たり前3原則”の唱和の継続、尊厳の大切さを学び日常的な意識強化に努めています。 “自分だったら、自分の大切な家族だったら”を念頭に、一人毎にあった対応や言葉がけを実践しています。特にデリケートなケア時の言葉がけは自尊心を傷つけないように最新の留意をしています	職員は拠点内研修で「倫理・コンプライアンス」、「プライバシー保護・個人情報保護」、内部研修で「倫理・コンプライアンス・個人情報保護・プライバシー保護」を学んでいる。毎日の接遇トレーニングや「当たり前3原則」の唱和等を通して利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。管理者は日常のケアの中で「もし、自分の親であったらどうするか」を常に考えて対応するように職員全員に伝えている。個人記録の保管や取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想い、気持ちを生活に活かせるよう取り組みを続けています。お一人毎の“伝える力”を把握し、問いかけ方、傾聴方法を検討、実施しています。言葉にならない言葉に耳を傾ける柔軟な姿勢で言動や表情等から気持ちを汲み取るよう心がけています。遠慮せず何でも話して頂ける関係性の維持に努めています		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース、希望に添い一日の生活が画一的にならないようにと考えています。行事、活動参加等日々の状況毎に説明、意思確認、同意を得たうえで、必要に合わせた勤務体制や業務内容を変更し実現できるよう努めています。事故や健康に影響を及ぼす可能性がある時にはしっかり話し合いを行います		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、好みの髪型、散髪の時期等、本人の“できる力”に沿った意向確認で個性を大切にして頂けるよう支援しています。愛用品（シャンプー、リンス、ボディソープ、化粧品等）の継続使用の為の補充も留意しています。特に外出、面会時の衣類、整容には細心の留意をし尊厳を護りたいと考えます		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理音、香り等出来上がるまでの過程や、買い物から片付けまでの一場面でも参加し共に作る楽しみ、喜びを感じる事が食事に対する意欲増進に繋がると考え、三食ホーム内での食事作りを継続しています。栄養の偏りには留意をしながら、季節感、風習や行事食、この土地での献立、好物を活用し楽しみな時間になるよう努めています	拠点施設の栄養士の指導を受けて、差し入れの野菜等を使って、三食とも事業所で調理している。その日の利用者の状態に合わせて、食べ易いように、むすびやうどん、お粥等で提供している。利用者は、米を研ぐ、野菜を切る、混ぜる、盛り付け、ご飯をよそう、お茶汲み、テーブルを拭く、食器を洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話を楽しんでいる。誕生日には本人の好きな出前（寿司、釜飯、仕出し弁当）やケーキで祝い、季節の行事食（おせち、七草がゆ、恵方巻、お雛様ランチ、節句の寿司、豆ごはん、クリスマスのデコレーションケーキ作り等）や、郷土料理（瓦そば、岩国寿司、いとこ煮等）、馴染みの料理、好きな料理等で、食欲を高めたり食事への関心を引くように工夫して、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患による調整、体調に配慮をし適量の把握に努めています。食事、お茶時間に拘らず食べやすい時間の検討、形態、援助方法等環境の工夫、家族の差し入れを含めた好物での捕食も取り入れ、リラックスした気持ちで食べる力の回復を目指しています。主治医に相談、助言を頂きながら栄養補助ドリンク、トロミ剤を使用されている方もおられます		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	プライバシーに留意をしながら援助が行える環境です。全身疾患の予防に口腔内の清潔が重要である事を理解し“出来てる力”の変化に早期に気づくよう留意をしています。個別に必要な舌苔ブラシ、スポンジ、口腔シート等の活用や、気持ちよく応じて頂けるよう言葉・働きかけを実践しています。必要に応じ、歯科医師、衛生士によるケア、助言、指導を仰ぎ取り組んでいます		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の活用や生活記録を基にお一人毎の排泄パターンや、表情、行動から排泄意サインを把握し“できる限りトイレでの排泄”の働きかけを継続しています。安全な誘導の為の援助者数の検討や、皮膚疾患防止の為、パット類も多種類活用し快適さを損なわないケアに努めています。尊厳を守る為、援助には細心の留意を心がけています	職員は排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。紙パンツやパットを使用時には根拠をはっきりさせて、家族にも説明をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は心身状況に影響を及ぼす事がある為、チェック表を活用し、適度な運動、十分な睡眠、水分量の把握、腹部マッサージ、乳酸菌やオリゴ糖の活用等、規則正しい自然排便への働きかけを行っています。支援の必要のない方の排便の有無、量の確認が難しく、言動、腹部の張り、トイレの汚れ具合等から予見し、必要に応じて主治医へ相談しています。やむなく薬を使用する際は本人への負担が最小限となるよう調整を行っています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、身体衛生の目的の他に、リラックスや気分転換の効果があると考えています。見守りだけで入浴が可能な方は、時間、回数を定めず入って頂いています。お一人毎に応じたタイミング、誘いかけ、援助人数・方法、湯温や時間での対応に心がけ、ゆっくりくつろげる場面となるよう援助しています	入浴は毎日、13時30分から16時30分の間、希望する時間に入浴できる。順番や湯加減、好みのシャンプー、ボディソープ、季節の柚子湯等、利用者の希望や好みに応じて、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。職員は入浴は皮膚状態の観察の場であり、思いを聞くことができる場ととらえている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、手浴、複数支援等、個々に応じてリラックスして入浴できるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠が体調変化の兆しとなることもある為留意して、眠れない原因の究明、解消に努めています。個人毎の日中から就寝までの過ごし方、安心できる言葉がけ、就寝時、就寝中の環境、起床時間を検討し安眠を妨げない支援をしています。眠れない時は無理強いせず共に過ごす等心がけています。健康に影響を及ぼす危険がある時には、家族、主治医に相談、検討頂いています		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新たな処方、薬剤の変更は観察強化、記録で情報共有に努め、必要時は主治医、薬剤師に相談しています。適宜、“薬の説明書”で内容、副作用を確認し、マニュアルに沿った内服支援を行っています。拒薬や飲み込みまで見守りを要する方へは焦らず確実に対応を行う等、事故防止に努めています。用量や薬剤の必要性は主治医や看護、家族と検討し、減量を試みる等、その方にとって最適な服薬となるよう心がけています		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十八番の歌、踊りの披露、お一人毎のお誕生日に行うお祝いの会、家事活動や手作業、パズル、塗り絵といった個人活動への促しを画一的にならないよう場面を検討し、他者との調和、調整をしながら行っています。“出来る力”の低下で難しくなる場面もありますが、“役に立ちたい”“活躍したい”気持ちを大切に方法を検討しています。して頂いた事には必ず感謝を伝え、達成感、喜びに繋がるよう取り組んでいます	節分の豆まき、バレンタインデー、雛祭り、端午の節句、母の日、父の日、七夕飾りづくり、敬老会、開居記念日、クリスマス会＆忘年会、誕生日会、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、新聞をたたむ、花壇の草取り、食事の準備や後片付け、袋をたたむ、本や雑誌、新聞を読む、テレビ鑑賞、ラジオを聞く、音楽を聴く、習字、ぬり絵、折り紙、絵を描く、歌を歌う、ゲーム、4字熟語、パズル、百人一首、ゲーム、ジャンケン、クイズ大会、音楽活動（歌の会）、ラジオ体操、部分体操、口腔体操等、一人ひとりのしたいこと、好きなことのできる場面を多くつくり、気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の為、散歩は個別で、周囲の状況も見極めながら行うよう努めています。季節の外出行事も、お一人毎の状況と体力を考慮して無理なく楽しんで頂けるよう少人数ずつ行いました。理美容等の個別希望も細心の留意、確認をしたうえで行っています。法事やお墓参り等、個別な希望に対しては、安全な環境を整えて頂いたり、安全と思える場所に限り、ご家族へも協力の働きかけを行いながら実現努力をしています	感染状況に配慮しながら、初詣（松濤神社）や自宅周辺ドライブ、季節の花見（桜、つつじ、菖蒲、紫陽花、紅葉等）で、琴崎八幡宮、常磐公園、鵜ノ島公園、松寿神社などへドライブしたり、拠点内散歩に出かけている。花壇の草取りや水やり、個別の散歩など、日常的に外出できるよう支援し、家族の協力を得て、法事への参加、墓参、寺参り等の外出ができるように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向を確認し、その方に応じた支援となるよう対応しています。所持希望の方は、所持される事で予測されるトラブルを、本人、家族に説明、同意の上で所持して頂くよう努めています。所持が困難な方に対してはお預かり金制度を活用して頂き、必要に応じて、欲しい物、必要な物の購入を支援しています。その際の取扱いについては重要事項説明書に記し、マニュアルに沿って行い事故防止に努めています		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染防止の観点から、面会制限の時期はお手紙での交流が増えたように思います。お手紙類は必要に応じて代読、代筆を行っています。電話については子機を使用し好きな場所で楽しんで頂けます。携帯電話を所持されている方もおられますが、頻度、時間帯の調整を行う介入をしています。オンラインも可能になっています。家族や大切な方との関係継続は大切な支援の一つと考え、本人の状況に応じたお手伝いを行うよう心がけています		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今も、ボランティアの方による玄関花が季節を彩っています。どの居室からも扉を開ければ皆さんと過ごす空間がわかり、安心できる環境です。台所からの匂いや音、季節毎の行事の飾りや、冬季の炬燵、檜風呂や縁側風な居間、五感に働きかけ心地良い空間づくりに努めています。衛生安全委員会の活動も含め、温度湿度管理、照明の調整、悪影響を及ぼしそうな汚れや音の排除、衛生、安全面にも穏やかな生活づくりを行うよう努めています	玄関には季節の花が飾ってあり、花壇の花と共に季節を感じることができる。リビングダイニングは外気浴のできるウッドデッキにつながっていて明るい。室内の中央にはアイランドキッチンがあり、調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。室内には大きなソファや椅子を配置し、壁面には時計とカレンダーを掛けている。利用者の談笑コーナーとなる畳のスペースや、お茶や日向ぼっこの場となるサンルームがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。温度や湿度、換気、明るさ、音に適切に配慮し室内の整頓、清潔に留意し、空気清浄器を設置して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人毎、その時毎、思い想いに過ごして頂けるスペースづくりに努めています。窓辺のチェアー、玄関先のベンチ、廊下のソファー、居間の畳スペース、多目的室の活用等で緩やかな時間が流れています。過ごしたい場所が重なる為、仲介、調整をしたり、意思表示が難しい方は表情から読み取る等、折り合いをつけながら好きな居場所での時間を楽しんで頂いています		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、障子、襖、畳の和風づくり、入口の扉、内装、照明器具、天井は居室毎デザインを変え設えられている為、お一人毎、個性のある生活空間作りを楽しまれています。使い慣れた馴染みの品々を持ち込んで頂くことで、ホーム内で一番落ち着ける居心地の良い場所になっています。本人の状況に合わせ衛生面、安全面の環境整備にも留意をしています	ベッドやテレビ、整理ダンス、衣装ケース、机、椅子、仏壇、時計、新聞、本、雑誌、ぬいぐるみ、座布団等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーやポスター、家族写真や葉書、自作品、水彩画を飾って本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	“出来ていること”を維持し、“出来る力”を充分に発揮して頂けるよう、バリアフリーで手すり付きの廊下、浴槽と同じ高さの椅子で入りやすい浴室、食堂には3サイズの食卓セットが生活の中で役立っています。お一人毎の状況に合わせ危険の洗い出しを行い、危険性が高い場合、事故防止か尊厳保持のどちらが優先かの検討を家族も含めて行い、それに沿った環境整備になるよう努めています		